悪ノ小説 moonlit bear

ファリナ♪

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
悪ノ小説　ｍｏｏｎｌｉｔ　ｂｅａｒ

【Ｎコード】
Ｎ３５６５Ｑ

【作者名】
ファリナ♪

【あらすじ】
暗い森の中でひっそりと暮らすきこりの夫婦と「原罪」の物語。

暗い暗い森の片隅。
私は真っ赤な果実を二つ拾った。
これはきっと、神様からの素敵なプレゼント。
「これさえあれば私たちは幸せになれる」
この果実を持って帰ればあの人は喜ぶかしら？
嬉しすぎて泣いてしまうかもしれない。
空を見る。真っ黒に染まった空の中に浮かぶ金色に輝くとても綺麗なお月様。
さあ、早くお家へ帰ろう。この果実を持って。

こんな暗い森には怖い熊が出るのよ。

せっかく見つけたのに。
ようやく見つけたのに。
誰にも決してこの果実を渡したりしない！

花が咲く森の道を私は駆け抜ける。赤い果実を抱えたまま。
このまま帰れば私もあの人も幸せになれるのだから。
「早く……ハァ…ハァ……早く、帰らなきゃ……ハァ……ッ」
走る。私は走って我が家へと向かう。
もうすぐ幸せになれる！
ところが、私の後ろから怖い顔をした熊が追い掛けてきた。

お願い、許して……。
見逃して……。

本当は全て分かっていた。

この果実があの熊の宝物だということを。

私は走る。ただただ走る。
この幸せだけは絶対に誰にも渡さない。
熊の姿が月に照らされて、黒い影が私に迫る。
正しい道は既に失っていた。それでも私はひたすら走り続けた。
私は泣いて、熊も泣いて、私の抱えた二つの果実も泣いていた――――

ガチャリ。
急いでドアを開ける。
やっと辿り着いた愛しの我が家。
家の中には男が一人と黄色い髪の双子がいるだけ。
「ただいま」
私が言うと彼は優しく微笑んで、
「おかえり、イヴ」
私は抱えていた二つの果実を彼に見せた。
すると彼は突然悲しい顔をした。

「……いいかい、イヴ。僕たちの子供はもう既にこの世にはいないんだよ。この子たちは……この双子は本当のお母さんの元へ帰してあげなさい」

それを聞いた私は、叫び声をあげた。
いつか真実がその牙と爪で私自身を引き裂いても、この暖かくて優しい、真っ赤な果実をどうしても欲しかった。
だから、私は許されぬ罪を犯してしまった。
目の前にいる、黄色い髪の双子を誘拐して、自分の子供にしてしまおうという罪を。

「今ならまだやり直せる」と彼は言ってくれるけど……

「無理よ……だって、もう……」

家の外には横たわっている一人の熊の……女の亡骸があった。
それは多分さっき私の後を追っていた人。あの双子の母親……かもしれない。
その女の傍らにはミルクの満ちた小さなガラスの小瓶が落ちていた。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n3565q/

悪ノ小説 moonlit bear

2011年1月28日01時45分発行